

糖尿病とがん

川口市立医療センター
糖尿病内分内分泌科

しゅくや ゆき
宿谷 結希



2013年5月、日本糖尿病学会と日本癌学会の合同委員会から、糖尿病をもつ人はもたない人よりもがんを発症する危険性が20%ほど高いという報告がありました。糖尿病をもたない人のがん発症リスクを1とした場合、もつ人は、肝臓がんでは1.97倍、膵臓がんでは1.85倍、結腸がんでは1.40倍もがん発症リスクが高まることが分かりました。その原因としては、インスリン抵抗性とそれに伴う高インスリン血症、高血糖、炎症などさまざまなものが考えられています。

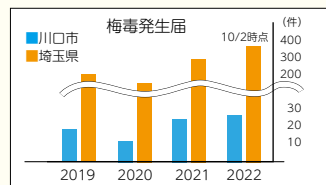
糖尿病によるがん発症リスクを下げるには、当然血糖コントロールを良好に保つことが必要ですが、同時に食事内容を見直すことも重要です。例えば、超加工食品(ソーセージ、ハム、ベーコンなど)は大腸がんのリスクを高めるというデータがあります。これらは、高カロリーで脂肪や塩分、食品添加物を多く含み、腸内細菌叢(腸内フローラ)を変化させ腸内環境を悪くするため、体内の炎症を助長し、がん発症リスクを高めるとされています。一方で発酵食品には、腸内細菌を増やし、腸内環境の改善効果があることが知られており、ヨーグルトなどの乳製品をよく食べている女性は、大腸がんの発症リスクが17%減少したという報告があります。バランスの良い健康的な食事は血糖値を良好に保つだけでなく、がんの予防にもつながる可能性があります。皆さんも今一度、普段の食事内容を見直してみましょう。そして、がんを早期に発見するためにも、定期的に「がん検診」を受けましょう。

要注意! 梅毒が流行しています 12月1日は世界エイズデー

2021年(令和3年)の国内梅毒発生届件数は、過去最多を更新しましたが、今年はずでに昨年1年間を上回る件数となり、埼玉県や川口市でも同様の傾向がみられます。

▶梅毒とはどんな病気?

性的な接触などによってうつる感染症で、感染するとさまざまな症状が出ます。主な感染経路は、感染部位の粘膜や皮膚の直接の接触です。性器と性器、性器と肛門(アナルセックス)、性器と口の接触(オーラルセックス)などが原因となります。



▶どんな症状が出る?

感染後の経過した期間によって症状の出る場所や内容が異なります。感染した部位にしこりができたり、手のひらや体全体に「バラ疹(しん)」という赤い発疹がでたりします。症状は自然に改善する場合がありますが、治療しなければ治りません。不妊の原因になることや、胎児に感染する「母子感染」が起こる場合もあります。

▶予防はできる?

コンドームを使用することで感染のリスクを減らせますが、コンドームが覆わない部分から感染する可能性があるため、100%予防できるわけではありません。パートナーなどと一緒に検査を受け、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。

▶感染の不安がある場合は?

保健所で無料検査を受けましょう。匿名・無料で毎月検査を行っています。症状がある場合は、すぐに医療機関(男性は泌尿器科、女性は婦人科)を受診しましょう。 →24ページ

問 疾病対策課 ☎048-423-6726

イベントスケジュール

2日(金) 12月
かわぐち光のファンタジー2022点灯式
場 川口西公園(川口駅西口)

4日(日)
第40回川口マラソン大会
場 青木町公園総合運動場(スタート・ゴール会場)

27日(火)~31日(土)
スーパースターフェスタ2022
場 川口オートレース場 →27ページ

7日(土)~22日(日) 1月
アートな年賀状展2023
場 アートギャラリー・アトリア →19ページ

9日(祝)
川口市はたちの集い
場 リリア、川口西公園 →14ページ

川口市 広報課 職員による 85.6 MHz City Information FM Kawaguchiで放送中
放送日: 平日の10分間...10:00、13:50、17:50、20:00

LINE 川口市 公式アカウント @kawaguchi.city

きらり川口情報メール



ひと 交番に花彩りを届けた10数年

ながしま まさよ
永島 政代さん



交番に届いた一通の手紙。「交番の皆さんのおかげで、受けるより与える方が幸せだと感じる事ができました。その手紙を書いたのは本市在住の永島さん。昨年12月までの約10年間、青木交番へ季節の花を届けてきた。機械加工の工場を家族で営んでいた永島さん。花を育てるようになったのは、ご近所さんたちが工場通りに珍しく花を育てていたから。『うちだけ殺風景なのは寂しい』と意気込んで花を育てているうちに、花の持つ魅力が永島さんの心を鷲掴みかんだ。「たんぼは上を向き、桜は下に向けて咲くように、多くの花は人に向けて咲いているのだ」と思っています。花は私たちに元気や心地よさを与えてくれるんです。」

工場まで自転車で通う道中、一方自身は「脳梗塞で倒れた主人の介護生活が始まり、何度心も折れそうになっただけでも、交番へ次の花を届けるまで、それまでは頑張ろう」と自身を奮い立たせていたと語る。リハビリがない日には家族でドライブに出かけ、「交番の前を通るたびに、『お母さんの花が今日もきれいに咲いているね』と後遺症

が残っていた主人がその時ばかりははつきり言ってくれていました」と目頭を押さえる。今年2月に傘寿を迎えたことで、花を贈ることの節目とした。「仕事も介護も終わり、ひと区切り。安心できるこの街で、これからはのんびりと暮らしていきたい。」

花を育て、届け続けていたことで地域の防犯意識の向上などに貢献したとして、今年6月には川口警察署から感謝状が贈られた。「交番の花がいつも美しく咲き続けていたのは、交番に勤務する皆さんが忙しい中、水やりなどの手入れをしてくださったから。本当は、私ではなく交番の皆さんに感謝状を渡してほし」と穏やかに笑った。(彩)